

2020年も残すところ1か月あまりとなりました。年末年始、患者さんを在宅療養にするかどうか、そろそろ病棟では予定を立て始める時期になるのではないのでしょうか。今号のNST 便りでは、経管栄養の患者さんが在宅療養中にどの栄養剤を使用するとよいのかについてお送りします。



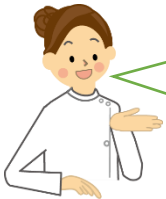
退院後、在宅での経管栄養剤は何を選択すればいいの？

最初に、下記の表を参考に薬価の栄養剤への切り替えについて検討してみてください。

入院中				在宅				
	当院採用栄養剤	区分	(kcal/ml)			区分	(kcal/ml)	(薬価/ml)
半消化態栄養剤 (液体)	アイカホ [®] -ト1.0	食品	1	患者負担 ※食事扱いのため	ラコール	薬価	1	0.7
	アイカホ [®] -ト1.5	食品	1.5		インシュア・リキッド [®]	薬価	1	0.54
半消化態栄養剤 (半固形)	メイ [®] ット	食品	1		インシュア・H	薬価	1.5	0.94
	ハ [®] ップ [®] タックス [®] タ [®] ド	食品	1.5		イノス	薬価	1.6	1.57
消化態栄養剤	ハ [®] ップ [®] タックス [®] タ [®] ド	食品	1.5	ラコール半固形	薬価	1	1.02	
成分栄養剤(粉)	ILソール(水を加え約300mlへ)	薬価	1	病院負担 ※薬扱いのため	ツインライ [®]	薬価	1	0.83
	ILソール(水を加え約300mlへ)	薬価	1		ILソール(水を加え約300mlへ)	薬価	1	1.56

～なぜ、在宅では薬価の栄養剤を検討するべきなのか？～

薬価の栄養剤は保険がきくためです。栄養剤は1kcalあたり1円が相場と言われていますので、1日1500kcal投与すれば1500円、1か月30日間で45,000円と大きな負担になります。一方で薬価の栄養剤、例えばラコール半固形の場合、1500kcalを3割負担・1か月30日間使用した場合13,770円と大幅な負担軽減となります。患者さんの病状だけでなく生活背景にも考慮して、在宅での栄養剤を検討することは重要と言えます。

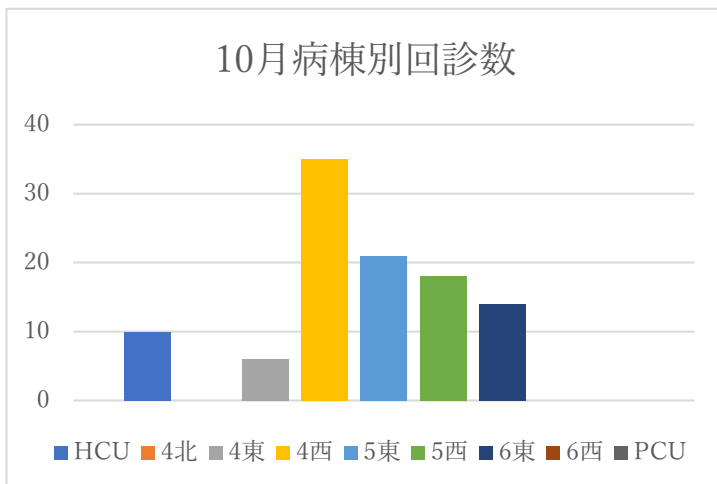


上記の表はあくまでも目安です。患者さんの病態や体質などによってはこちらの表によらない場合もあります。(PFC比、食物繊維や微量栄養素の有無、Na含有量など) 栄養剤の選択で悩む時、白湯の量について相談したいときなど経管栄養の不明点については、ぜひ管理栄養士やNSTまでご相談ください！



10月分の実績

	TPN(延べ人数)	EN(延べ人数)	PEG造設数	新規介入数	延べ回診者数
	128	388	2	43	106



TPN・・・中心静脈栄養(高カロリー輸液)
EN・・・経腸栄養(経鼻・胃ろう等からの経管栄養)

★NST対象患者さんは、毎週の体重測定とSGAの入力をお願いします。

★NST依頼を入力する際、依頼理由を備考欄にご記入ください。介入時にスムーズになります。(例:低Aib/褥瘡/周術期/EN/PN etc.)

文責: NST専従 管理栄養士 谷岡 恵